

令和8年度島根大学大学院

教育学研究科入試問題（Ⅱ期）

《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》

小論文

注 意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙2枚である。

指示があってから確認し、解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。

- 3 解答は、解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は、持ち帰ること。

受験番号

《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》

小論文 問題

令和6年12月25日、文部科学大臣による中央教育審議会への諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」において、顕在化している課題として、『主体的に学びに向かうことができていない子供の存在』をあげている。学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供が増加しているということである。その他、習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある児童生徒が少ないこと、等に依然として課題があると指摘されている。

そして、令和7年9月25日、文部科学省の中央教育審議会・教育課程企画特別部会は、次期学習指導要領の改訂に向けた「論点整理」を公表した。今回の整理では、「主体的・対話的で深い学び」の実装による質の高い教育の実現、多様な子供たち一人ひとりの可能性を引き出す多様性の包摂、そして持続可能な形で教育の質を向上させる実現可能性の確保という3つの方向性が示されている。

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を育成するための「主体的・対話的で深い学びの実現」に、あなたはどのように取り組みますか。児童生徒が主体的に学ぶための授業づくりの観点と、学びのための学習環境づくりの観点から具体的にあなたの考えを1000字程度で述べなさい。

引用・参考文献

- 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問） 令和6年12月25日 文部科学大臣
- 教育課程企画特別部会における論点整理について（報告） 令和7年9月25日 教育課程企画特別部会